

# とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都豊島区
園名	アスク池袋本町保育園

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

～Countries and cultures (国と文化)～  
～Nature (自然)～

<テーマの設定理由>

保育園の生活の中で給食や日本以外のルーツを持つ友だちを通して、子どもたちが外国に興味を持っており、テーマを通して他国の文化を知ることさらに興味・関心が広がっていくと感じたため。また、自然を選んだ理由は子どもたちが戸外活動に行った際に、動植物に強い関心を持ち、子どもたち同士で図鑑や絵本を使って調べる姿があったため。

## 2. 活動スケジュール

4月から1月まで行い、月に1回英語の講師と共に、日本以外の文化や言語に触れる場を設け、映像や写真などの視覚情報を通して、子どもたちの興味関心を高めた。その時点での内容に対する子どもたちの問いかけや疑問を基に素材を集めたり方向性を考えたりと、子ども達の内容に対する反応や言葉によって、子ども達が主体的になれるように講師と保育士が次回の内容を相談し、臨機応変に変えていけるようにした。

6月:インドについて  
7月:イタリアについて  
8月:フィリピン、日本について  
9月:カメルーン、エジプトについて  
10月:オーストラリア、ドイツについて  
11月:海、砂漠、洞窟、山の自然や生物について  
12月:植物について  
1月:虫について

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- 以下の備品は6月から10月の間に行った「国と文化」というテーマの際に毎度使用。
- ・世界地図ポスター:日本と外国の位置確認と国の面積を比べるために使用。
  - ・iPad:外国の文化を言葉や写真だけではなく、動画を見て理解をさらに深めるために使用。

#### 4. 探究活動の実践

### 【3歳児実施分】

**問いを考える：** 講師主導で世界地図や自然、動物の写真やイラストを提示しながら「この場所にはどんな自然があるのかな？」「みんなが住んでいる日本より暑そう？寒そう？」「海にいる生き物はなんだろう？」などと問いかけた。保育士は自由に発言できる雰囲気을大切し、一人ひとりの気付きや発想を受け止めながら、世界への興味関心を広げていくよう援助した。

**探究活動の様子：** 講師主導で世界の様々な自然環境(森林、砂漠、海や川のある地域など)について、写真や絵本、図鑑等を用いながら活動を展開した。視覚的にも分かりやすい資料を用いることで、子ども達には自然の違いに気付きやすくなり、「山には木がいっぱい」「暑そうでお水がないね」「海と川の違いは何だろう」「毒のある植物って何？」などと見たこと・感じたことを自分の言葉で表現し、それを友だち同士で話をして考えを膨らませていく姿が見られた。

活動を進める中で上記のような疑問が次々と出始めたので、保育者主導で言葉を補いながら一緒に考えつつ、4.5人グループで図鑑を見ながら調べ、共有する機会を設けるなどしたことで、環境と生き物の関係に目を向ける姿が育ってきた。砂漠にも植物が咲く→砂漠に咲く植物は毒があるものもある→図鑑で毒の植物や食虫植物に興味を持つ→植物の上に卵が乗っている事に気が付く→卵に興味を持ち、どのような形の卵があるのか調べてみる、などどんどん興味が膨らみ、探究心を持って取り組むことが出来ていた。

**ふりかえり(保育士の気づき)：** 写真や視覚教材、制作活動などを取り入れてきたことで、子どもたちの興味関心を継続的に引き出すことが出来た。特に思ったことや感じたことを伸び伸びと発言する様子が印象的で、自然環境と生き物の繋がり自然と気付きながら話を進めることが出来た。グループ活動では友だちに対して「こうじゃない？」「こっちもいいかも」などと考えをお互い伝え合う姿も見られた。

今後は子ども一人ひとりのつぶやきや疑問が持てるように環境構成や援助を工夫していきたい。

#### 【4歳児実施分】

##### 問いを考える：

講師主導で世界地図を見て日本と周辺の国々との位置関係を子ども達と見たり、子どもたちが生活している「日本」を多角的な視点から見ることによって、外国への興味や好奇心が向上した。また、活動をしていく中で子どもたちから出た素朴な疑問を、保育士が地図や図鑑、そしてネットワークを用意し、それらを使用してそれらを解消しつつ、子どもたちの物事への探究したいという意欲が見られた。

**探究活動の様子：** 保育室内に子どもたちの目線の先に地図を用意することで、子ども達自身から「日本はどこだろう？」、「これはどこの国なの？」等、日本だけではなく外国への興味が自然と深まっていく姿があった。講師主導で外国の暮らしや文化について学び、さらに学んだことを図鑑等で詳しく調べようとする姿が見られた。日本や外国への関心をより深めるために、着物体験を行い、すくわくで学んだ日本の文化を体験してもらった。体験後は「お洋服と違って長袖しかなかった」や「一人で着るのが難しかった」と素直に感じたことを保育士に伝えていた。また、保育士が主導となって子どもたちの姿に合う図鑑や絵本を用意し、子どもたちに分かりやすく情報を提供を行ったことで、子ども達同士でも図鑑を見て知識を身に付けようとしていた。特に4歳児では、国旗に強い関心を持っており、すくわく以外の時間でも国旗の絵本や地図を見ていた為、子どもたちに国旗の塗り絵を用意した。子どもたちに塗り絵やブロックで国旗を表現してもらい、3グループに分かれて子ども達同士でどの国の国旗なのかを話し合ったあとに問題を出し合っている様子が見られた。給食のメニューに国旗が描かれていると「今日はフランスの料理だね」、「これこの前調べたね」等、学んだことをアウトプットしたり、外国の料理で作れるのは何かあるのかと積極的な姿勢が見られた。その子どもたちの問いかけを聞き、保育士が園内の栄養士と相談し、すくわくで学んだイタリアの名物である「ピザ」を作った。その際に生地が発酵前や発酵後を観察して、生地の変化について栄養士に質問や、自分たちで考えたことを意見する姿が見られた。自然がテーマの際は、講師が用意した野菜や果物の成長過程の動画を見て、「野菜や果物の種類によって成長の仕方が同じなのか、違うのか」という保育士の問いかけに対して、「違う」という答え以外にも、どう違うのか、同じなのかを具体的に答えている様子が見られた。

##### ふりかえり(保育士の気づき)：

・すくわくを始めた時は外国のイメージがつかず、あまり関心や興味がない反応だったが、回数を重ねるごとに子どもたち自ら世界地図や図鑑を使って調べたり、紙に国旗を書き写す等、子どもたちが徐々に外国に興味を抱いているのが印象的だった。また外国の知識がないからこそ、写真や動画を見て感じた印象を素直に発言しているのに気づき、関心を示している物を一緒に調べたり、問いを投げかけることで子どもたちの理解を深められたと考える。さらに、日本と外国の似ている遊びや歌、子ども達も慣れ親しんでいる料理を作る等、すくわくを子どもたちの日常に入れることで、自然に子どもたちの好奇心を高まり、積極的にすくわくに参加をしていた感じた。

### 【5歳児実施分】

**問いを考える:**「世界には、どんな国がどのくらいある？」

自分たちが生活している「日本」について探求を深めていくことで他の国への興味や関心へつながった。世界地図や様々な国に関する図鑑を保育室に準備することで、子どもが主体となって国について調べる姿が見られた。子どもの興味や関心に合わせた問いかけをしていくことで探究活動を進めた。

**探究活動の様子:** 世界について興味関心をもつことができるように保育士が主導となり活動を進めたり環境設定をしたりしていくことで子どもが主体となり、グループ活動で「どんな国があるか」「国旗の種類がたくさんある」「どんな文化か」等について調べたり聞いたり知識を深めていく様子があった。グループでの探究活動後に全体で伝え合う場を設けることでさらに知識を深めることができていた。また、えいご講師が主導となり活動を行う中で国名や国旗を覚えていく他、日本との文化の違いにも気づき、探究心をもって活動を発展させていくことができていた。探究心をもって活動に取り組みを進めていく中で主に様々な国の食文化や国旗への興味や関心を強く示す姿があり、自ら調べて知ろうとする様子が見られた。食文化では、図鑑を見る中で「ごはん」「パン」「麺」などの見たことのあるもの食べたことのあるもの等、身近な食べ物から初めて知ったものまで楽しく図鑑を見て知識を深めていく様子が見られた。給食の献立も他国にまつわるものがメニューにくると学んだこととつなぎ合わせて楽しく食事をすることができ、自分たちが住んでいる日本料理(和食)への理解も深まっていたように思う。国旗では、お気に入りの国旗や知っている国の国旗を絵で描いていくことも楽しむ姿が見られた。

**ふりかえり(保育士の気づき):** 自分たちの住んでいる国から始まり、様々な国について探究心をもって調べたり知識を深めたりし、興味や関心を高めていくことができた。保育室内に子どもの興味や関心をもてる環境設定をしていくことで子ども自らの「知りたい」という主体性を促すことができたように思う。探究活動を進める際は、子どもの言葉から問いを広げていくことや意欲的な姿勢を大切に、子どもが主体となって活動を進めていくことができるように保育者の関わりを意識した。子どもたちの考えやイメージを言葉で表現できるように問いかけをしていくことで好奇心を高めていけるようにした。今回のテーマへの好奇心や探究心をもつ姿が見られたからこそ活動の積み重ねで学びを深めることができたと思う。

★写真添付（3歳児）



★写真添付（4歳児）



★写真添付（5歳児）



# とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都豊島区
園名	アスク池袋本町保育園

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

～生活と音～

<テーマの設定理由>

生活の中に溢れる音の面白さや、言葉と音の結びつきに気付き、自分なりに感じ、考え、自由に表現していく楽しさを味わえるようにする為。

## 2. 活動スケジュール

6月から1月までの間、月に1回音楽の講師と共に楽器の演奏や歌声、生活音、オノマトペなどに触れる機会を創出し取り組んできた。子どもたちの反応を見ながらより興味を引き出すよう、楽器の制作や町中・生活音の探究活動などを保育者とともに行っていった。

6月:音当てゲーム/オノマトペ

7月:保育室内の音探し

8月:音を絵で表現しよう(海の絵)ルイ音悪い音って何だろう

9月:波の音が出るものを探し鳴らしてみよう/「グルグル」という音はどう絵で表現するか/感情を音で表す

10月:様々な素材の音探し/オノマトペ探し/今の気持ちはどんな色

11月:どんな楽器があるのかな/玩具で音を鳴らしてみよう/声の物差し

12月:楽器作り/生活の物(ペットボトルやたわしなど)を使い演奏会/生活音を録音しよう

1月:廃材楽器での演奏会/録音を聞いて音当てゲーム

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・楽器(エッグシェーカー、鉄琴、木琴、太鼓、鈴、タンバリン、カスタネット、ハンドベル、鍵盤ハーモニカ):年度末の楽器演奏の際に、音のイメージを考え、楽器を使い音の奏で方や効果音の探究をするために使用
- ・文房具(模造紙、クレヨン、色鉛筆):8.9.10月に音を聴き、感じ取ったものを描き表現するために使用する
- ・オノマトペ絵本やイラスト:講師の取り組みの際に使用、音を可視化しイメージが持てるようにする。

#### 4. 探究活動の実践

##### 【3歳児実施分】

**問いを考える：** 日常の中で聞こえてくる音に意識が向くように、保育士主導で「どんな音が聴こえてくるかな？」「雨が降るとどんな音がする？」「車はどんな音で走っているかな？」などと問いかけた。また、実際に講師主導で保育室にて水道の水を流してみたり、耳を澄ませながら「今どんな音がした？」と投げかけてみたりすることで子どもたちが自分なりのオノマトペで表現できるように促した。

**探究活動の様子：** 日々の保育の中で、保育士主導で子どもたちと一緒に「音探し」を意識的に行った。園庭では風の音や砂を踏む音、室内では玩具同士を組み合わせでオリジナル楽器作りをする。散歩先では、車や電車、工事現場の音などに耳を澄ませ、「どんな音が聞こえたかな？」と共有する時間を設けた。集団活動でもオノマトペのジェスチャーゲームを取り入れると行動と音の組み合わせを考え表現しようとする姿が見られた。

子どもたちは次第に周囲の音に興味を持ち、保育者が問いかける前に「先生、今ザーって音がしたよ」「ゴゴゴって聞こえた」と自ら気づきを伝える姿が増えていった。音を聞くと口に出して真似る姿も見られ、音と言葉が自然に結びついていく様子が見られた。また、講師主導の際に取り組んだ活動では、子によって同じ音でも言葉による表現方法が違い、他児の表現方法にも興味を持っていた。2グループに分かれて音探しをして探したものを相互に見せ合う活動も盛り上がっていた。

年度末の制作活動では、廃材を使いオリジナルの楽器作りを行った。太鼓のような打楽器が人気で叩いて表現したり、空箱に画用紙を切って入れてカサカサと音が鳴る様子を楽しむ子もいたり表現の広がりを感じられた。

**ふりかえり(保育士の気づき)：**すくわくが始まったときは、保育者の問いかけで音探しをしていたが、活動をしていく中で「今の音何？」「ゴ`ーって聞こえたよ」などと子ども達自身から気づき、伝え合う場面が増え、生活の中に音が自然と根付いて行くことが感じられた。今後も生活の中に溢れる音の面白さに気づき、自分なりに感じ、考え、表現していく過程を大切にしながら、子ども達の主体的な探求を育める環境を作っていく。

#### 【4歳児実施分】

**問いを考える：**生活をしていて聞こえてくる身の周りの音がどのように聞こえるのかを子ども達に問い、それを言葉や絵で表現してもらった。また、なぜその言葉を選んだのかを、描いた絵にはどんな意味が込められているのかを子ども達に質問をし、音に対する子ども達の考えを深められるようにした。

**探究活動の様子：**講師主導で日常で聞く音を意識してもらうために、「音」とはなにか、みんながよく聞く音は何かを問いかけた。その問いを元に3グループに分かれて子ども達に意見を出し合ってもらい、園内で講師と保育士とともに音探しを行った。園内を探索する前は「音」とは何かを言葉で表現することが難しい様子だったが、探索を始めると聞こえた音に対して「トントンって聞こえた！」、「タンタンじゃない？」と、自然に子ども達同士で会話をしながらオノマトペで表現していた。さらに、保育士主導で探索後に「音」とは何かを再度問いかけると、「目に見えないけど耳には入ってくる」、「楽しい音、悲しい音、色々な音がある」や「声も音だよね」等、探索活動を経て子ども達から「音」に対する具体的な考えや意見が出た。「声も音」という意見が子ども達から出たので、講師主導で声色や声の大きさを変えて、どんな感情なのか色や絵にするとどんな風に表現できるのかを問いかけ子ども達に絵や表情を使って表現してもらい、みんなの前で発表をしてもらった。また、すくわく活動の回数を重ねる毎に、普段の活動中でも子ども達から「トイレの水の音を聞いてみたい」や「エアコンがごうごうって言うてるよ」と子ども達から「音」を共有してくることが増えたり、子ども達自分が自分達の好きな玩具を集め、玩具で合奏を始めたりと、「音」に対して興味や関心が広がっている様子が見られた。

**ふりかえり(保育士の気づき)：**すくわく開始時は活動中も職員の問いかけにも反応が薄く、「音」に対して興味や関心があまり無い様子が見られたが、園内での探索活動、絵や言葉を使った音の表現など、様々な活動を行って「音」について子ども達と関わったことで、子ども達が徐々に意欲的に取り組んでる様子があった事がとても印象的だった。また、すくわく活動以外にも子ども達だけで「音」について気になったことを議論し、仮説を立て、どのように調査をするのかを保育士に提案し、終わった後は振り返る事を行っており、自然に「音」とは何かを探究している姿が回数を重ねる毎に増えていた。すくわくが終わる頃には、小さな音にも気付き、「今ジャージャーって水の水の音がしたね。誰かが手を洗っているのかな？」、「トントンって靴の音が聞こえたから誰かが来るかも」と日常と「音」を絡めて会話をしている姿が見られるようになった。

### 【5歳児実施分】

#### 問いを考える：

生活の中で身近にある音について興味や関心をもつことができるような問いかけをしていった。また、日常の中での聞こえる音や歌の歌詞から考えられる音など子どもの発言や発信から問いへとつなげていくことで活動を進めていくようにした。

**探究活動の様子：**身近な音への興味や関心をもつことができるように保育士が主導となって活動を進めたり環境設定をしていくことで探究心をもって活動に取り組むことができた。身近な音を聞いてイメージしていく中で活動が展開され、身近なものの音への探究活動へとつながった。保育環境にあるものから音を鳴らしたり音の違いに気付いたり活動を楽しむ中で、身近な音と楽器の音が似ていることに気付いた。日々の保育の中での活動からつなげ、おんがく講師が主導となって楽器の種類や音について考えたり調べていく中で学びが深まりさらに見つけた音から音のなる楽器を廃材で作り出す活動へとつながった。イメージしたものを作品として作り出す活動をしていくことで、どのように作るか・何を作るか・どんな音になるか等、自分たちで考えて工夫して楽器作りをしていくことができた。作る過程の中で、音が鳴る(音が鳴らない)・音の違い等に気づき、そこからどのようにすることで自分のイメージを作品として作るができるかを考える様子が見られた。気づきから考えを広げていくことができた。完成した作品の音を実際に鳴らし、何を使いどのように作ったか発表をする機会を設けることで作ったものを認めてもらい自信へとつながっていた。また、自分の作品だけでなく友だちの作品にも興味や関心をもつ姿が見られ、少人数でのグループ活動を通して考えの違いや考えを広げ、深めるきっかけにもなっていた。

**ふりかえり(保育士の気づき)：**子どもたちの興味や関心の幅がそれぞれ違うことが多かった為、好奇心をもつきっかけを作ることができるように環境設定を考えていくようにした。興味や関心がでてきたことからさらに探究心を高められるように言葉掛けをしていき、子どもの言葉や反応に合わせて活動を発展させていくことで取り組みにつなげた。探究をさらに深めるために日々の保育の中でも子どもたちが気付いたことや学んだことを取り入れていくことで探究活動の実践へとつなげることができるようにした。気づきや学びから考えを広げ、そこから考えを深めていくきっかけ作りをしていくことで子どもが主体となって活動を進めることができた。

★写真添付（3歳児）



★写真添付（4歳児）



★写真添付（5歳児）



